



第5回(2019年度)舎友会総会・記念講演会・懇親会開催報告

2019年(令和元年)9月7日(土)飯田シルクホテルにおいて第5回総会・記念講演会・懇親会が開催された。出席者は舎友57名に招待者の高柳法政大学教授、後期寮長の権田君ら2名と特別来賓の牧野飯田市長を加えて総勢60名であった。

定刻の正午、総会・記念講演会会場の4階「飛天の間」に参加者全員が着席。総会に先立ち、金田憲治(舎友No.164:下条村長)の紹介により牧野飯田市長が挨拶に立ち歓迎と祝辞を述べられた。

【 第5回総会 】

《シルクホテル4階「飛天の間」》

総会は12時10分、池神副会長による開会宣言の後、議長選出があり、牧内会長が議長席に着き第5回総会の議事に入った。
議題1. 平成30年度事業報告と決算報告は事務局福與の報告と嶋岡監事の監査報告の後決議した結果、全会一致で承認された。
議題2. 令和元年度事業計画、事業予算についても全会一致で承認された。
議題3. 役員改選については、事務局より推薦された案が全会一致で承認され、新しい役員が下記の通り決定した。
報告事項1. 各支部活動報告は、南信支部は池野事務局長、中信支部は竹村幹事長、北信支部は田尻幹事長より報告があった。
報告事項2. 寮及び寮生活の現況報告並びに報告事項3. 法人の運営報告に関しては、時間の関係で配布資料をもって報告に代えることとなった。以上をもって全ての議案が終了したので牧内議長は12時40分に閉会を宣した。

【 記念講演会 】

《シルクホテル4階「飛天の間」》

総会終了後、深澤副会長の司会により記念講演会がスタート。講師は、牧内良平(神奈川大学理事長)さんと林史典(筑波大学名誉教授)さんの2名で、まず最初に深澤副会長より両講師の略歴紹介があった後、それぞれ30分の講演を行った(講演要旨は2頁参照)。

記念講演会終了後、「飛天の間」で出席者全員の記念写真撮影

撮影者:森山幹夫(舎友No.196)



信陽舎舎友会 新役員

会 長	林 史典(67)	幹 事	竹村 治恭(140)	顧 問	神波 潔(85)
副 会 長	池神 利勝(109)	”	鈴木 昭夫(154)	”	下平 肇(87)
”	深澤 克巳(115)	”	伊藤 寿彦(162)	”	中山 卓(103)
”	葛岡 龍夫(151)	”	田尻 実(207)	”	常盤 昌昭(136)
”	池野 兼浩(298)	”	青柳 淳英(280)	編集委員	福田 璋夫(116)
監 事	片桐 勝臣(110)	”	小林 隆(354)	”	福與 卓臣(117)
”	原 誠(220)	”	坪木 崇(408)	”	深澤 勝吉(135)
幹 事 長	福田 璋夫(116)	”	田中 淳一(470)	”	五島 久揮(176)
副 幹 事 長	福與 卓臣(117)	”	岩原 優(580)	”	原 誠(220)
”	伊原江太郎(147)	顧 問	牧内 良平(91)	”	仁科 圭右(306)
”	上松三治彦(108)	”	高間 成之(38)	”	田中 淳一(470)
”	浅沼 弘愛(172)	”	古島 史雄(47)	”	岩原 優(580)

📖 記念講演要旨 📖

《講演要旨》

『大学倒産時代が到来 ～人口減少社会の行方～』

講師：牧内良平神奈川大学理事長



牧内良平講師

18歳人口の将来推計、私立大学数と入学定員の推移などの詳細なデータをもって、定員割れによる大学経営の窮状を説明し、このまま推移すれば10年後には地方の小規模私大100校が経営困難となり倒産消滅すると警告するとともに、文科省による私大の新設奨励策や財務省による私大軽視、国立大偏重の補助金政策への苦言と見直しを提言した。

また、長野県及び飯田伊那地区の人口推移、下伊那の市町村人口及び小中学生数の推移データを示し、深刻さを増す地方の過疎化、人口激減は県内(地方)大学への進学予備軍の減少につながり、東京の大学への一極集中がますます進む恐れがあると警告した。

最後に、「神奈川大学の新たな挑戦」と題して、大学経営にとって厳しい状況を乗り切るために、「みなとみらいキャンパス」を新設(2021年4月開校)、国際日本学部、外国語学部、国際経営学部の国際系3学部を集約し、横浜キャンパスと併せて全8学部の総合大学に発展させることに挑戦していると述べた。

番外編として、東大合格者の変遷と題して、1975年と2019年の東大合格者の高校別ランキングデータを基に分析し、1975年当時は公立高校の合格者が多かったが、今は中高一貫の私立学校の合格者が圧倒している。つまり、金持ちの子弟でないと東大に入るのが難しい時代になっていると、格差社会が教育にも大きな影を落としていることを示されて講演を締めくくられた。

《講演要旨》

『～人は誰も”天才”だった！～ 母語の獲得法と運用上の問題』

講師：林史典筑波大学名誉教授



林史典講師

母語(母国語)は、生まれて3歳くらいまでにその運用単位も運用文法も自ら獲得する。語順も経験的、帰納的に自然とわきまえ身につけていく。主語・述語・修飾語といった文法的カテゴリーは持たずルーズであるが、抽象から具体化へさらに抽象へと繰り返すなかで概念化されて”脳内辞書(Internal Dictionary)”が形成される。脳内辞書に対して、”外的辞書(External Dictionary)”は、紙の辞書、電子辞書やインターネット等であるが、脳内辞書は自ら獲得するもので、脳内辞書に無いものは決して使えない。

脳内辞書を豊かにするのは経験であり、”脳内文法(Internal grammar)”は読書(古典など名著)で培われる。

運用上の問題としては、推知力、推読力への過度な依存は誤解釈を生むなどの落とし穴となる。付度や過剰表現などが溢れる社会・政治環境では、正しく読み取る力が求められる。豊かな経験と読書により脳内辞書、

脳内文法を豊かにしておかないと、真意を正しく伝えることもできないし、相手の真意を読み取れず、言葉の魔力に負けてしまう。言葉の魔力に惑わされない読解力を身につけるには、《経験》と《読書》によって脳内辞書・脳内文法を豊かにする必要があると、人格形成の鍵となる”母語”の重要性について語られた。

【 懇親会 】

《シルクホテル3階「瑞雲の間」》

午後2時15分、席を3階の「瑞雲の間」に移し、金田憲治南信支部幹事の司会進行にて懇親会が行われた。

まずは、今年7月3日に亡くなられた上松進(53)さん、8月31日亡くなられた大平宏(134)さんを加え武蔵境寮以降、55名となった物故者のご冥福を祈って1分間の黙祷を捧げた。

最初に下平肇南信支部会長による開会宣言があり、新会長に就任した林史典会長挨拶、来賓の高柳俊男法政大学教授による祝辞の後、古島史雄前理事長(第10代理事長)に対しその功績を讃えて感謝状と写真額が福與現理事長と林舎友会会長から贈呈された。

午後2時30分、牧内良平顧問・前会長による挨拶と音頭により出席者全員で乾杯を行い、旧交を温める賑やかな宴が始まった。

宴の半ばに、出席している公益法人の新しい評議員、役員(理事・監事)全員が演台に並び、福與理事長から紹介があった。また、将来信陽舎及び舎友会を背負って立つことが期待される若い舎友(田中淳一、下岡祥平、岩原優、高野凌輔、後田健太郎、御子柴優樹、神藤駿介、在寮生で寮長の権田敬太郎)の8名が伊原副理事長より一人一人紹介された。

さらに、各支部単位で出席者の自己紹介や初参加者の紹介等、多くの舎友がマイクを握り寮生活の思い出や近況などを披露している間に時間が過ぎて行った。

午後4時00分、牧野憲治評議員の音頭で”信陽舎寮歌”と”信濃の国”を高らかに斉唱。午後4時10分、坂好章・南信支部副会長による閉宴の挨拶があり、続いて午後4時15分、高間成之顧問・前南信支部会長の音頭による万歳三唱で終宴となった。

午後4時30分頃より、シルクホテルの別室に用意された二次会会場に30数名が再集合し、尽きない思い出話に花を咲かせた。同じ釜の飯を食べた者同士、何十年振りかに再会した懐かしさと絆の深さから別れがたく、参加者の約半数が二次会に顔を出すとは、幹事の池野さんも想定外だったようだ。その盛り上がりは二次会でも終わらず、まだ未練のある者同士飯田の町に繰り出し、6名程は駅前のラーメン屋で、6～7名はホテルに近い居酒屋「東野」で三次会を始める始末となり、時が過ぎるのを忘れて語り合ったようである。

今回の総会・記念講演会・懇親会が大盛況・大成功となったのも、池野実行委員長はじめとする南信支部の実行委員の皆さんのご尽力のお陰であり、心から感謝申し上げます。(事務局・福與記)

《総会・記念講演会風景》

シルクホテル『飛天の間』



受付をする南信支部実行委員



司会・金田下条村長



祝辞・牧野飯田市長



総会司会・池神副会長



総会議長・牧内会長



事務局報告
福与事務局長



監査報告
嶋岡監事



南信支部報告
池野支部事務局長



中信支部報告
竹村支部幹事長



北信支部報告
田尻支部幹事長



記念講演会司会
深澤副会長



記念講演講師
林筑波大学名誉教授



会場「飛天の間」での総会風景



記念講演講師・牧内神奈川大学理事長



記念講演会聴講風景

《懇親会風景》

シルクホテル『瑞雲の間』



懇親会開会宣言
下平南信支部会長



会長挨拶
林新会長



来賓挨拶
高柳法政大教授



感謝状・写真額贈呈
古島史雄第10代理事長



返礼挨拶
古島前理事長



乾杯挨拶
牧内前会長



公益財団法人信陽舎・新評議員の紹介



信陽舎・新役員（理事・監事）の紹介

☺ 第5回総会・講演会・懇親会報告 ☺

青春の寮生時代にタイムスリップ！ 懐かしき思い出を共有したひととき



若手舎友の紹介

牧野評議員の音頭により寮歌・信濃の国を参加者全員で斉唱

閉会挨拶

万歳三唱

田中・下岡・岩原・高野・後田・御子柴・神藤・權田

坂南信支部副会長 高間前南信支部会長

☎ 羽生玄子寮母さんからのお元気な便り ☎

第5回総会の翌日（9月8日）の午後2時頃、まだ飯田の実家に滞在していた私（福与）の携帯電話に奇しくも羽生玄子寮母さんから電話がありました。前日の舎友会で、多くの舎友の方々から「羽生寮母さんはその後お元気だろうか？ まだ上田のご自宅に居るのだろうか？」などと尋ねられていたため、近いうちに連絡をとってみようと思っていた矢先だったので、私たちの想いが寮母さんに通じたのだろうか？ と、その奇遇に胸躍る思いでお話した次第です。その羽生寮母さんのお話の概要を以下の通りお伝えします。

「数年前の秋、福与さんが池神利勝さん、常盤昌昭さんと一緒に上田の自宅に来て下さった1年程後、自宅で高熱のため倒れ、救急車で上田の病院に入院、その1年後に上田市内の別の病院に移り、今もその病院に居るのよ。今は病室のある4階のフロア以外に出るはいけなと言われてるの。上田市諏訪形の自宅に戻ることはもうないので、自宅の荷物は甥や姪たちに頼んで整理してもらったが、家はそのまま残してあるの。

私は95歳になり、手紙など便りが書けなくなったので、福与さんや著書『天地人たり』を送っていただいた牧内良平さんにもお礼の返事を出せないでいるの。申し訳ないと思いつつ失礼しちゃってるのよ。

私には子供がいないので、信陽舎時代の寮生たちが私の子供なの。だから、寮生たちの消息を知ることが唯一の楽しみなのよ。これまで送っていただいた舎友会報は、何度も何度も繰り返し読んで、昔を懐かしく思い出しているのよ。

ただ、お送り頂いてもお礼の返事が書けず失礼していると、そのうちに送ってもらえなくなるのではないかと心配になって、福与さんに電話しようか、電話したら迷惑かしら？ と半年前から迷い悩んでいたのよ。

だから、今日こそはと、意を決してお電話してみたのよ。私の入院の件は親族以外には誰にも知らせてないの。

上田の自宅の隣が弟の家で、郵便物などは甥が定期的に病院に持ってきてくれるので、ご迷惑でなければ今後も会報などを自宅（上田市諏訪形）宛に送ってほしいの。」

お話では、新聞は毎日読んでいるとのこと、お声も話の内容も明瞭・明晰で昔の若々しい寮母さんそのままでした。昨年仲田長三さんが亡くなられたと伝えると「あの哲夫ちゃんのお兄ちゃんが！」、今年7月に上松進さんも亡くなられたという「姫路にいらした上松さんね！」、この8月31日に大平宏さんも亡くなられたという「エッ、千代の大平さん！」と、即座に返答が帰ってくるなど、その記憶力と寮生への慈愛の深さには驚かされた。とても95歳とは思えず、私が寮でお世話になった57年前（当時38歳の寮母さん）のままとしか思えなかった次第です。（事務局・福與記）

【北・東信支部新年会】

午後5時00分～午後8時00分 ホテル・メトロポリタン長野 2階「しなの」出席者は、北信地区から神波潔（85）、水上壱雄（194）、田尻実（207）、仁科圭右（306）、田川洋介（512）、東信地区から宮崎護（283）、東京本部から福與卓臣（117）の7名。



午後5時に会場のホテル・メトロポリタン長野2階「しなの」に参加者7名が集合、当初参加予定であった竹村和也君（607）が欠席となったのは残念だったが、東信地区から初めて佐久市在住の宮崎護（283）さんが参加してくれたのは収穫だった。

仁科事務局長の司会進行により、まず神波支部会長が開会の挨拶に立ち、「少子高齢化により寮生確保など寮運営には厳しい情勢となっている中、理事の皆さんが募集PRのため県内の高校を訪問されるなど苦勞されているようなので、北信・東信支部の会員を増やして少しでも協力できるような努力していきたい」と述べられた。仁科事務局長より参加者全員の紹介があった後、東京から参加された福與理事長が、『県人寮の現状と将来』と題して、厳しさの増す寮の運営の近況を報告した上で、今後は確固たる運営理念と寮の特色（存在価値）を打ち出せるかどうかはその存続がかかっているとして、「信陽舎の運営理念」と「信陽舎の特色（存在価値）」について解説し、その理念と特色を如何にPRし、認知度を高めていくかが大事だが、そのためには理事の力だけでは限界があるので、舎友会支部の皆さんのお力添えをお願いしたい、と語られた。（なお参考資料として、「信陽舎パンフレット」、「2020年度寮生募集要項」、「ご挨拶『信陽舎の運営理念と特色』」が参加者全員に配布された）。

続いて、田尻幹事長が、1月12日に開催された舎友会役員会の報告を行った後、北・東信支部の活動の活性化のために支部役員を増員したいとして、宮崎護さんを副幹事長に、田川洋介さんを副事務局長に推薦したいとの発議があり、参加者全員一致で承認され、新役員が次の通り決定した。

【会長】神波 潔 【幹事長】田尻 実 【副幹事長】宮崎 護 【事務局長】仁科圭右 【副事務局長】田川洋介

午後5時40分、田尻幹事長が乾杯の挨拶に立ち、今年度は理事長と池神常務理事が寮生募集PRで北信・東信地区の高校を訪問して頂いたが、来年度からは一緒に同行するなど協力したい旨の挨拶をして全員で乾杯を行い、美味しい料理と信州の銘酒を肴に楽しい宴会がスタートした。

宴の半ばに、出席者一人一人が自己紹介を行い、寮生活での楽しい思い出や失敗談など懐かしい話に時が過ぎるのも忘れて花が咲いた。また、舎友会の会員を増やすには、寮で一緒だった同世代の舎友に積極的に声を掛けて誘うことが大事だとのアイデアが出て、田川さんからは、名簿に乗っていない舎友で連絡がつく舎友が3名いる、次回の舎友会に彼らを誘って参加したいとの声も聞けた。午後8時、水上壱雄さんの中締めでお開きとなった。

【信州の明珠財宝 ④】 国宝・八角三重塔 (上田市別所温泉・安楽禅寺)



鎌倉期に創建された日本唯一の禅宗様式の木造八角形三重塔で、昭和27年松本城とともに国宝に指定された。安楽禅寺は鎌倉の建長寺と並んで日本最古の臨済禅宗寺院で、後(1588年頃)曹洞宗に改めた。

ご冥福を！

武蔵境寮以降の
物故者56名の
ご冥福を心から
お祈り致します！

❖ 上松 進 (舎友番号 53、1960年入寮) さん 令和元年7月3日ご逝去

第5回総会の飯田開催を最も望んでおられたご本人より5月中旬、次のような便りがありました。

『3月末、体の不調を覚え、肺がんと診断され、現在は自宅にて治療せずに、いつかやってくるその日を穏やかに待っています。自分のわがままをお願いした信州・飯田での開催に自分が行かれないのは誠に残念です。信陽舎が永遠に発展するように願っています。上松 進』

8月19日、ご遺族さまより、郵便振替にて年会費1,500円プラス寄付50,000円の払い込みがあり、払込票の通信欄に次のようなお便りが添えられていました。

『7月3日に上松進は逝去致しました。本人の生前からの希望により、わずかですが寄付をさせていただきます。』

❖ 大平 宏 (舎友番号143、1965年入寮) さん 令和元年8月31日ご逝去

ご本人は第5回総会への出席を楽しみにしていたのですが、直前になって体調が悪化し亡くなりました。

❖ 平沢英俊 (舎友番号156、1966年入寮) さん 令和元年10月8日ご逝去

信陽舎の存在価値を高めた寮生たち 《武蔵野市総合防災訓練で大活躍！》

寮生達が設置した福祉避難所や仮設トイレ、テントは予想以上の出来栄でした。視察に訪れた松下武蔵野市長や幹部職員、桜野小学校長、ケアハウス職員や近隣住民の目には、テキパキと作業をこなす寮生達の姿は印象的で、頼もしく映ったに違いなく、信陽舎の存在価値を高めたと思う。桜野小校長からは、2月の除雪作業での寮生の活躍に対するお礼の言葉も頂いた。この様な共同作業に関わることで寮生同士の絆やコミュニティの大切さを、そしてなによりも、世のため人のために役立つことの喜びを味わえたことと思う。参加寮生、理事、評議員の皆さん本当にお疲れ様でした！

- 10月27日（日）午前8時、参加寮生24名と参加理事、評議員6名が防災ヘルメットと信陽舎の腕章を着用し出動準備をする。
- 8時30分 参加寮生24名と理事・評議員6名の総勢30名がケアハウス1階の食堂に集合、ケアハウスから配布されたビブス（防災ゼッケン）を着用した後、ケアハウス防災責任者の井口さんより訓練の流れや役割分担、注意事項など具体的な説明があり、一旦解散となった。
- 9時00分 震度5弱以上の地震発生とともに役割分担された各班ごとに行動を開始した。
- 【安全確認・修繕班】 権田寮長（リーダー） 他寮生8名 《施設内及び外周部、共用部、ガラス飛散、扉開閉、転倒器具、火災煙発生有無、立入禁止区域等確認修繕作業》 確認後直ちにケアハウス1階事務室ホワイトボードに「異常なし」等と記入報告。
- 【仮設トイレ・テント設置班】 西脇副寮長（リーダー） 他寮生8名 《1階機械室より仮設トイレ2基とテントの機材を運びだし、組み立てて自転車置き場の施設壁際に設置する作業》 作業終了後直ちに1階事務所のホワイトボードに「設置完了」と記入報告。
- 【福祉避難所開設班】 土本副寮長（リーダー） 他寮生8名 《信陽舎1階読書室に軽度の要配慮者用避難所（5名収容）の開設（マット、毛布、座卓、ランタン等を配置）作業》 作業終了後直ちに事務所のホワイトボードに「避難所設置完了」と記入報告。
- 【軽度の要配慮避難住民】 伊原副理事長は手押し車歩行避難者、片桐評議員と福田評議員は車椅子避難者、鈴木評議員と牧野評議員は杖歩行避難者となって、1次避難所の桜野小学校へ避難。校庭での訓練と体育館内のトリアージ訓練を見学。
- 9時25分 各班のリーダーとケアハウス防災責任者が事務所に集合、災害対策会議を行い、それぞれがホワイトボードを読み上げ、問題点を共有すべく報告確認を行った。
- 9時30分 市の防災無線を使い、桜野小学校で避難者の世話を担当する市職員に福祉避難所の設置が完了したので、要配慮者5名の受け入れが可能になった旨の連絡を行った。
- 9時35分 ケアハウス職員がデイサービス送迎車にて桜野小学校へ上記要配慮避難者を迎えに行き、寮の福祉避難所に迎える。
- 9時50分 武蔵野市の松下玲子市長はじめ幹部職員や桜堤ケアハウスを運営する社会福祉法人武蔵野の安藤真洋理事長が来訪し、寮生たちが設置した仮設トイレや福祉避難所の資料室を視察した。
- 10時00分 送迎車が到着、まず杖歩行の鈴木、牧野両評議員、続いて手押し車の伊原副理事長、最後に車椅子の片桐、福田両評議員が大勢の市職員や寮生などが見守る中、福祉避難所となった読書室に入室し、無事避難完了、避難生活をスタートした。
- 10時06分 ケアハウスの給食担当者が準備した非常食（チャーハンと豚汁、缶詰のおかゆとサバの缶詰等）が避難者に配られ、実際に試食。松下玲子武蔵野市長から避難者5名に「不具合は感じないか？寝心地はどうか？ 非常食の食事ははどのようにですか？」などの質問があった。5名の理事・評議員の迫真の演技には、松下市長始め職員たちからは「本当の要配慮者のようだ。役者になれますね！」と感嘆の声が上がるほど要配慮老人になり切っていた。
- 10時20分 市長が出発し、代わりに桜野小学校の校長先生や近隣地区住民が福祉避難所を見学に訪れ、寮生や避難者が応対。
- 10時30分 福與理事長は村田施設長、安藤理事長とともに桜野小校庭で震度6強の地震発生を想定した防災訓練を視察。倒壊した家屋の下敷きになったり、屋内に閉じ込められた市民をレスキュー隊が救出する作業、路上に放置された車を移動させる作業、ビル火災の消火作業、4階に取り残された住民の救助作業等を見学。校庭には、武蔵野市役所職員、東京消防庁、武蔵野市消防団、民間の地域防災委員、西部地区各町内会関係者に一般住民など多数が参加。
- 11時00分 ケアハウス1階食堂に全員集合し反省会を実施、各リーダーより問題点、改善点等が報告された。
- 11時20分 後片付け、現状復帰作業を行なった。 11時30分 現状復帰の報告を行い全ての訓練が終了。 (運営記録より)



寮生出動準備OK



仮設トイレ組立作業



桜野小に避難した理事・評議員



車椅子で避難する福田評議員



寮に設けた避難所に落ち着く



寮生の介助で非常食を摂る



ケアハウス食堂で反省会を行う寮生たち



秋のスポーツ大会、フットサルでエネルギー発散！

前副寮長の折山達野君が秋のスポーツ大会としてフットサル大会を企画した。午後1時、新宿東口、紀伊国屋本店の対面にあるビックロビル屋上にあるフットサル場に寮生15名と伊原副理事長、福與がサポーターとして集合した。

寮生が運動着に着替えて集合、まずフットサル経験者（折山、坂口、権田、平林、村上、大久保）が2名づつ3組に別れ、未経験者も3名づつがそれぞれ加わって、5名一組の3チームに別れてリーグ戦を行った。開始当初は小雨が降っていたが、間もなくやんで晴れてくる中を熱戦が繰り広げられた。1時間で3試合終わると、メンバーの組み換えを行い、合計9試合、一人6試合をこなす結構ハードな運動となったが、寮生全員が童心に帰って夢中でボールを追いかけ、青春のエネルギーを発散する姿はとて清々しく、普段は見られない彼らの嬉々とした笑顔を見ていると、我々の方まで嬉々としてくるのを感じた次第だ。

ゲームも思った以上に白熱していて、チーム同士はもちろん、敵であっても、ぶつかった後はお互いに「ゴメン！」と手を差し伸べるなど、そのスポーツマンシップに爽やかな気分を味わせてくれた。これぞ、協同生活、協同作業、チームスポーツ等をとおして得られる連帯感（チームワーク）であり、その醍醐味を参加した寮生たちは実感を持って味わうことができたのではないかと。

午後4時、楽しいゲームが終了した後、コート内に全員集合し記念写真を撮影、心地よい汗の沁み込んだウェアを着替えて解散となった。その後用事のある寮生は帰り、残りの寮生はいくつかのグループに別れてエネルギーの補給に向かった。

参加した寮生たちは皆、普段の運動不足を痛感したようだが、心地よい疲労感とともに満足感がそれぞれの表情に出ていた。昨年のボーリング大会のような個人プレーに比べ、今回のようなチームプレーの方が連帯感や絆を深めることに役立つと思うので、今後も続けさせていきたい。（運営記録より）



新宿・ビックロビル屋上フットサル場

ケアハウス主催「介護と福祉の地域祭」に応援参加



今年の地域祭のメインイベントは桜野小学校の吹奏楽班による吹奏楽の披露ということなので、参加寮生11名は寮の駐車場スペースに演奏舞台を設営、観客席用の椅子を並べるなど演奏会場をセッティングした。午前9時過ぎると、演奏する児童約30名、音楽指導の先生、児童の保護者なども続々と集まり出し、イス席にはケアハウスのお年寄りが座り、その周りを近隣住民を含め100名以上が取り巻く大入りとなった。

午前9時50分に武蔵野市の松下玲子市長と市議会議長が来場。

午前10時、まず松下市長が挨拶に立ち、先週の総合防災訓練では信陽舎の学生さんたちが福祉避難所を設置するなど活躍して頂いたと感謝の言葉を述べていただいた。桜野小学校児童の吹奏楽演奏はとて小学生の演奏とは思えない感動的な演奏で、聴衆者は皆聞き惚れ、演奏終了とともに万雷の拍手が起こった。午前11時より、池野理事が飯田で手配してくれたリンゴ3種類300個と信州の旬の野菜、ケアハウス自慢の肉まん等の販売を開始。寮生たちが販売を手伝ったが、どちらも大人気で飛ぶように売れ、正午頃にはほぼ完売という盛況だった。午後には、ケアハウスにて福祉講座も開かれたようだが、我々理事3名はそれぞれ所用の為12時30分に切り上げた。

寮生たちは地域祭終了の午後14時から後片付けを手伝った後反省会を行い、無事大盛況の地域祭は終わった。

信州リンゴの手配など池野理事にはご苦労を掛けたが、特に今年は先の台風19号で北信（長野）地域一帯のリンゴが壊滅的な被害を受けたあおりで、南信のリンゴも高値品薄のところ安い価格（100円/1個）で確保いただき心から感謝申し上げたい。（運営記録より）



㊦ 卒寮生送別会 ㊦

令和2年2月22日、卒寮生送別会は卒寮生5名、在寮生18名、理事8名、ケアハウス9名、他5名の総勢45名の参加者を得て開催された。

定刻の午後6時30分、参加者が全員席に着いたところで、主役である卒寮生5名が全員拍手の中を入場し上座の席に着席した。

まず、副寮長・山下君の司会進行の下、土本副寮長の開会宣言、権田寮長から参列者へのお礼と卒寮生への送別の挨拶があった後、理事長挨拶では、「卒寮生諸君は、急激に変化する厳しい荒波（社会）の中に出ていくわけだが、荒波に呑み込まれないためには、幅広い教養と豊かな感性、そして鋭敏な思考力を自ら身に付けていかなければならない。皆さんが入寮した年の10月から続けてきた寮会講話も40回となった。その40話を4冊に纏めた講話集を卒寮祝いとして贈りたい。これは直ぐには役立たないかもしれないが、ことあるごと（悩んだとき、行き詰ったとき等）に何度も読み返していただければ、皆さんの人生を豊かなものにするために、決して無駄にはならないと確信している。この講話集が、これからの人生でより多くの人々と信頼関係を築いていただくための一助となれば幸いです。将来 いつの日か、この寮で過ごしたことを誇りに思ってもらえるようになれば、私は本望です。皆さんが、豊かな感性と優れた人格を身に付け、多くの人々に尊敬され、頼りにされる社会人となってくれることを切に願っている」と述べ、卒寮生一人一人に講話集を贈呈した。

続いて、祝辞としてケアハウス村田施設長より、「4年間寮生の皆さんには大変お世話になったが、特に昨年の大雪の時の除雪作業と秋の台風19号の時の処置対応には心から感謝している。皆さんの今後のご活躍を心から祈っています」とお祝いの言葉を述べられた。

次に乾杯の挨拶に指名された深澤常務理事がマイクを握り、「私と福與理事長、池神常務理事の三人はこの寮の同期生で同部屋だった」と話すと、一斉に「へー！」と驚きと感嘆の声が上がった。「この信陽舎で3年間一緒に暮らした仲間と、55年過ぎた今でも懇意な付き合いをしており、福與理事長から“寮の仕事を”と声が掛ければ、“オー！やろー！”とすぐに集まるといった仲である。君らもそういう仲であってほしい。そして将来は、互いに誘い合って寮の運営に力を貸すようになってもらいたい」と述べ、卒寮生の前途と出席者全員の健勝を祈って乾杯を行い、賑やかな送別の宴が始まった。

途中、卒寮生一人一人がマイクを手に4年間の寮生活で楽しかったこと、寮母さんに叱られた思い出などを披露しながら、感謝とお礼の挨拶を行ったが、入寮したころの幼さや頼りなさそうな面影は消え、自信に満ちた話しぶりや内容を聞いていると、寮での4年間の協同生活が、これほど人間を成長させるものか！と、寮生活の意義を再確認した次第です。宴の半ば、余興として2年生の大久保龍太君と村上遼君がコンビで上方漫才を披露し、満場の笑い拍手を浴びた後、見事なハーモニーのラップ（ヒップ・ホップ）をアカペラで披露し大喝采を浴びた。後輩寮生や理事などが入れ替わり立ち替わり卒寮生たちにお祝いと別れの盃を交わしに訪れ、大変な盛り上がりとなる中、後輩の寮生たちから卒寮生に記念品としてネクタイがプレゼントされた。

最後に、池神常務理事の音頭で信陽舎寮歌と信濃の国を参加者全員で合唱し、午後8時40分に閉宴となった。理事たちが帰宅の途についた後も、寮生達は二次会、三次会と朝方まで名残惜しい別れの会は続いたようだ。（運営記録より）



☎ 事務局からのお願い ☎

今年(2020年)度から年会費は **2,000円** となります！

年会費の郵便振替手数料（舎友会負担）は、1件につき80円～130円だったのが、昨年より150円～200円へと70円値上げとなり、さらに昨年10月の消費増税に伴い153円～203円となった結果、実質収入が 1,347円～1,297円と減収になりました。そこで、本年1月12日開催の役員会に於いて、本年度より500円値上げし2,000円とすることが承認されました。上記事情をご理解いただき宜しくご協力の程お願い申し上げます。

☎ お便り大歓迎！ ☎

常時、舎友の皆さんの便りを募集しております。随時受付を行っていますので遠慮なく下記事務局までしどしお便りをお寄せ下さい。

☎ 舎友名簿に関するお願い ☎

舎友会では、個人情報保護の観点から「舎友名簿」の発行は行っていません。同期会又は各地区舎友会等を企画される折に、該当する舎友の連絡先を必要とされる場合は、お手数ですが下記事務局までお問合せ下さい。

《 会報「武蔵野」編集委員 》

福田 璋夫(116)	福與 卓臣(117)
深澤 勝吉(135)	五島 久揮(176)
原 誠(220)	仁科 圭右(306)
田中 淳一(470)	岩原 優(580)

発行人：福田璋夫（舎友会幹事長）
 事務局：福與卓臣（舎友会事務局長）
 〒225-0026 横浜市青葉区もみの木台 34-8
 ☎(045)902-2575 携帯☎090-9841-6349
 E-mail : tof2943@citrus.ocn.ne.jp

会報「武蔵野」第6号 令和2年4月1日発行